

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」		
所在地	大分県大分市寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成 21年 10月 15日	評価結果市町村受理日	平成22年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470101967&SCD=320>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年11月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・ふる里訪問で個別対応しゆったりと穏やかな時間を過ごしていただき、家族より高い評価をいただいている。  
 ・その人の動きに寄り添い安心した生活を送って戴くようなケアを心がけている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・住宅密集地に位置しているため、庭に四季に合わせた樹木や草花を植え、庭に出るのが楽しみになるような工夫をしている。  
 ・ふる里訪問では、一泊したり普段料理しない方が昔ながらの台所で朝食を作ったりすることもあり、自発性や社会性が保てる支援をしている。  
 ・併設施設での合同の食事会や行事を行い、他者との交流や家族参加でのバスハイキングなどにも取り組んでいる。施設で収穫した芋を入居者と一緒にご近所に配り、近隣との親交が深まるような取り組みをしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に取り組み実践できている。	玄関や共有空間、スタッフルームに理念の提示をしており、朝礼時には、全員で唱和している。地域との関係性も重視し、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設されている老健の盆踊り大会に参加したり、地域の公民館活動として詩吟に参加し、又は近くの美容院に通う等交流に努めている。	公民館で開催している詩吟への参加、職員が中心となった近隣の清掃活動、施設での収穫物を近所に差し入れ親交を深める取り組み、地域の美容院利用など地域資源を活用している。小学生も定期的に来ており、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長や老人会会長から認知症に関する質問等あり、説明後其々の会に持ち帰り話し合ってもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文章だけでなく、パワーポイントにてグループホームの取り組みなどを報告して、意見を出してもらい、今後のサービスに取り組んでいる。	幅広い立場の人に参加してもらい、評価の取り組みや報告をし、意見や話し合いを行っている。また、家族全員に推進会議に出てもらい、意見などを反映し、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、時には管理者が市役所に電話し担当者で話し合う機会を作っている。	問題解決に向け市役所に出向いたり、電話で担当者と協議、事業所の実情報告も行き、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前テラスで職員の見守りの中自由に外気浴したり、身体拘束は会議等で議題に出し職員全員が理解している。	権利擁護や拘束に対する勉強会を会議に取り入れ、職員の理解を深めている。外出や散歩も職員が付き添い、自由に外に出られるような支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習で学ぶ機会を持ち、常に皮膚の観察などに注意している。		

事業者名：認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、学ぶ機会をもち、今後必要に応じて支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に充分説明し納得して戴いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には言葉や態度から思いを察する努力をし、家族に対しては玄関に意見箱を設けて、利用者本位の運営に努めている。	家族会を年2回開催し、家族の意見の反映に努めている。面会時などにも家族への報告や相談などを行い、気軽に話せる関係を作っている。家族からの意見に対し、会議にて検討し、結果を必ず家族へ報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回幹部を交えての会議やスタッフ会議等設け職員の意見や提案を聞いている。	ミーティング、カンファレンス、モニタリング時も職員の意見を反映し、ケアの質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や会議等で代表者が就業規則を説明したり給与の話等オープンに説明し向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて国家試験の受験のすすめや、スキルアップのための法人内外の研修を受けるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心として他の同業者(所)への見学交流を行っておりネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向が直接把握できない場合は、家族から本人の考え方等聞き取り、反映させる又は環境が変わることについて仮想論で意向をつかむ。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは何度か連絡を取り、その都度不安に思われていること等を聞き取るようになっている。又、事前の見学であったり、職員との面談等で具体的に問題解決していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設での現状を理解してもらい、他のサービス利用について紹介している。その際にはそれまでの本人の生活の様子を極力実像がわかるように把握し、入居後、環境変化にスムーズに馴染むよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特性を生かした役割分担を行っている。不安等のある方には時間を掛けて傾聴している。外出の機会を作ってマンツーマンの対応でお互い話を出来る環境づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の訴えや悩み等を必要に応じて家族に報告し、協力してもらったり共に解決できる環境づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々との関係が途切れないように公民館でのイベント事や散歩に出かけ交流を深めるように努力している。	行きつけの美容院利用や近隣での散歩に出かけ交流を深めている。墓参りや馴染みの場所に行くなどの支援も行われている。家族の要望も聞き、昔からの馴染みの関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の声を聞き、食事時での席の配置を工夫したり、レベルに応じた2～3人によるレクや作業により孤立しないよう取り組みをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で退居された方に対しては入院施設に面会等に行き、その方や家族との関係を大切に維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方に対する希望や意向に対しては本人本位でその人らしい生活ができるように努めている。	日々の関わりの中で言葉や表情、行動などの把握に努めている。家族からの情報を基に本人本位に検討し、本人がしたいと思うことは積極的に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族の面会時に生活歴などを小さな事柄でも情報を得る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、体調の変化などに注意をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に対して思いやりや要望を聞き、全職員でカンファレンスやモニタリングに基づき介護計画を作成している。	定期的カンファレンス、モニタリングを全職員で行い、必要時は早急に介護計画の見直しを行っている。家族の意見や関係者との話し合いも行い、その人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、全職員が情報を共有し、介護計画の見直しの評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ふる里訪問・公民館活動の付き添いや家族の状況に応じて、歯科受診・美容院など同行支援を行っている。		

事業者名：認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の好きな文化サークル(詩吟)の参加や周辺美容院の利用、地域諸施設から協力を得ることが出来るよう、外への働きかけを心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は、当事業所の医療体制に信頼を得ており、医師の指示で総合病院への医療連携も出来ており、家族の意向に沿った医療連携体制がある。	家族や本人の希望を踏まえ、通院支援を行っている。病状により総合病院への受診は家族と協力し行っている。夜間などは母体施設の医師が往診、必要に応じ、専門医の受診や歯科受診などの支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた点は速やかに看護師に伝え、看護師の元で投薬、内服、日常の健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医院が併設されており、頻回に面会に行き、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、状態の変化があった場合、再度、家族に確認し、結果を職員全員で共有している。	今年3月に看取りの実績がある。入居時に本人、家族へ説明、意向を聞いている。状態変化の場合も再度家族と話し合い、医師、職員が連携をとれるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急体制連絡は、各個人それぞれ把握できており、応急手段を月一度の会議で確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議で必ず話題を出し、再確認をするとともに、シーツ交換時にシーツを使った避難訓練や地域の小学校で消火訓練をしている。	消防署立会での訓練や定期的な避難訓練を実施、地域主催の消火訓練にも参加している。また、地域の避難場所にも指定され、備蓄も十分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉かけで対応し、本人の誇りが傷つくような言葉かけや対応があった場合は職員間で注意しあう。	守秘義務やプライバシーについては会議などで職員の意識を高め対応に気を付けている。本人が自己決定出来るような言葉かけ、意思疎通困難であっても、さりげない対応やケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に飲み物の希望を聞き自分で決められるよう声かけしている等、本人の意思を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の表情や言葉を見逃さず、お話を伺いながら職員全員でその人らしい生活ができるよう考えて大切にしている。寄り添い一緒に過ごすことを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容の日を設けお化粧をしたり、近所の美容院に出かけ、パーマもかけてもらっている。(美容院側が認知症を理解してくれている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等できる人には、食器を洗って拭いてもらったり、テーブル、お盆、お箸、コップを並べてもらっている。食事時は会話を楽しんで食事をする。	食事の準備や後片付けなどもその日の利用者の状況に合わせて職員と協働している。おやつ作りも必ず手作りし、一緒に行っている。弁当持参の職員とおかずの交換をしたり、和気あいあいとした雰囲気、楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェック表で記録、日々チェックし、個々の体調にあわせて栄養面や水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様一人ひとりの動きに合わせて、毎食後口腔ケアの支援も確認している。		

事業者名：認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、声かけ誘導を行い、失敗やおむつを減らすように自立にむけ支援している。	排泄チェック表を利用し、さりげない声かけや誘導をしている。個別対応をし、トイレでの排泄支援をしている。これまでに紙パンツから自分の下着に替え、自立に向けた支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は繊維の多い食事作りや水分補給に気をつけ、排便チェック表と水分量のチェックを行い、廊下歩行や散歩等身体を動かす働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い、本人の体調に合わせてさりげなく意向を尊重して入浴を楽しめている。	毎日、入浴出来るようにしており、無理強いする事なく入浴を楽しめるようにしている。また、利用者の意見を反映し、夕方や好きな時間に入れるように取り組んでいる。嫌がる方にはタイミングや声かけを工夫し、行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、本人の希望などに応じて食後の休息をとってもらったり、本人の状態や意向にそって早めの入眠をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等受診時に医師より指示された事は、申し送りノートやケースに記録し、服薬の支持と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普通っていた詩吟教室に又通ったり、三味線を弾いたり、洗濯物干しの手伝いやたたみ等主婦の役割を楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年1回併設している老健と合同のバスハイクには希望により家族同伴で参加してもらったり、GH独自でドライブに行ったり、買い物や散歩に職員と一緒に出かけよう支援している。	玄関前に椅子などを配置し、自由に戸外で外気を吸ったり、職員と買い物や散歩に出かけるなどの支援をしている。本人の希望を把握し、外出やドライブなども取り入れている。ふる里訪問も定期的に行い、昔ながらの生活体験をもらい意欲向上に役立っている。	



事業者名：認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い帳を作り、買い物に同行時など必要なものを本人と相談しながら買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で電話を掛けたり、写真や絵手紙を親戚の人に出したり、代筆したりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、食堂は照明、色彩、清潔、適切なスペースを配慮している。季節感は生け花等で採り入れてる。	日当たりの良い畳のスペース、食事作りの音や匂い、季節の花を飾り、適度な五感を刺激し、生活のメリハリをつけている。さりげない調度品や使いやすい物品を工夫し、過ごしやすい雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間で寛ぎが出来、個々の座布団を用い、肘掛椅子でゆったり過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビなどを置いている。生け花が趣味の人は花を活けたりして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	使い慣れた道具や家族の写真、本人の趣味に合わせた居室になっている。家族から提供された物も居室に飾ったり、一人ひとりの個性に合わせた工夫をし、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の恐れのある人に対して足元にマットを置いて対応している。又、洗濯物たたみ等名前を確認し出来る人は自分で箆箆にしまったりして、自立した生活が送れるよう工夫している。		